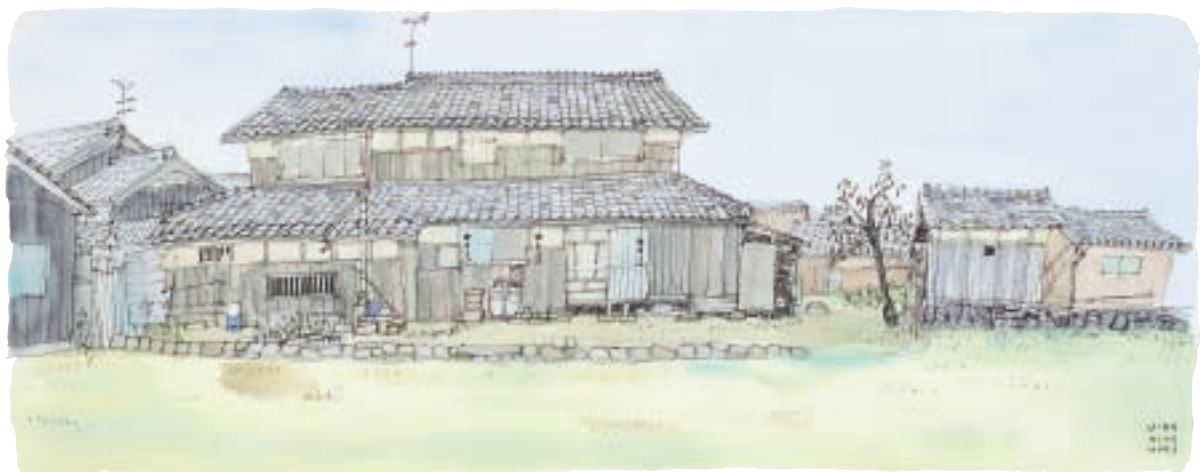




田中三五郎さん、ちか乃さんちのかばた：（新旭）



築100年になる三五郎さんのうちを裏から見たところ

## かばた文化

新旭の針江や藪園などの旧家では、ほとんどの家の敷地から、今もこんこんと水が湧き出ています。

地下を掘って水が湧き出してくる場所を元池といい、元池からパイプで水をひいて溜める池を壺池、そして壺池から流れ出た水が溜まる池を端池と言います。

これらの池を合わせて「かばた」と呼び、ここにはその「かばた」と暮らす文化があります。

壺池の水は顔を洗ったり、野菜をつけておいたり、飲み水として使われます。この水は年中通して12〜13度と夏は冷たく冬は温かな水です。

その次に流れてゆく端池の水は、川から流れ込む水と混ざり、ほとんどのうちでコイが飼われています。

この水は鍋や食器など洗いのをするのに使われ、その時に出る残飯をコイが食べてくれるので、汚れを最小限に止めることができます。

そして端池の水は川へ流れ出し、また下流のうちの「かばた」に入ります。ここでは水路で家々がつながっていて、そこには昔からずっと守られてきたルールがあります。

## ともに生きる水

この「かばた」をはじめて見せて頂いた時の感動は今でも忘れません。水がどこから来て、どこへ行くのか、そんなことを考えなくても蛇口をひねると水が出てきて、使った水はすぐ排水口へ流れてゆく…

それがあたり前の中で暮らしてきた私にとって、とても衝撃的でした。

針江では、この湧き水のことを「生水」（しょうず）と言いますが、そのとおり、ここで作られた水は生きています。そして、その水とともにこの「かばた」の道具一つ一つもまるで生きていくようで、そのすべてがどうしようもなく愛しく、できる限り描いてみたいと思いました。